

【他誌掲載論文】

湖沼環境に対する住民意識の評価：東郷池を例に

宮本 康\*・森 明寛

全国環境研会誌 Vol. 37, 29-34 (2012)

**Key words:** 東郷池・環境・五感・経験・環境啓発

地域住民が湖沼環境をどのように捉えているのかを評価するために、東郷池を対象にアンケート方式の五感調査を行い、池を見るという経験が池に対する評価に与える影響について3つの仮説を立て、どの仮説がもっとも結果をよく再現するのかをモデル選択により検討した。その結果、短期的な経験（一時的に池を見ること）と長期的な経験（過去の池の状態を知っていること）の両方が池に対する評価を決めているという仮説が採択された。併せて、住民は現実とかけ離れた印象を池に対して抱いていること、学童を中心とする低年齢層が池に対して低い評価を下す傾向があることも明らかになった。以上の結果より、東郷池に対する環境啓発は、低年齢層を対象として、池を直接的に見ることのできる状況で行う方式（湖岸学習）が効果的であることが示唆された。